

第1章 理念・目的

1. 現状の説明

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

<1>大学全体

本学の建学の精神および教育理念は、学校法人松蔭女子学院寄付行為・神戸松蔭女子学院大学学則・神戸松蔭女子学院大学大学院学則に示されている。

法人全体としては、学校法人松蔭女子学院寄付行為において次のとおり定めている。(資料 1-1)

第3条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、聖公会キリスト教の精神に基づく教育を行うことを目的とする。

大学については、神戸松蔭女子学院大学学則に次のとおり定めている。(資料 1-2)

- 第1条 本学は聖公会キリスト教主義に基づく人格の完成と心身ともに健康な社会人の育成を期して高い学問的教養を授けるとともに学術研究の場として深く専門の学芸を研究教授することを目的とする。
- 2 本学の設置する各学部、学科又は専攻における人材育成に関する目的、その他教育研究の目的については別に定める。

また、大学院については、神戸松蔭女子学院大学大学院学則に次のとおり定めている。(資料 1-3)

- 第1条 神戸松蔭女子学院大学大学院（以下「本大学院」という。）は、聖公会キリスト教主義に基づく人格形成を根本方針とし、学部における教育・研究の基礎の上に、さらに高度にして専門的な学術の理論および応用を研究教授し、深い学識と高い研究能力・実践力を養い、文化の創造的発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的とする。
- 2 本大学院の設置する研究科、専攻における人材育成に関する目的、その他教育研究の目的については別に定める。

このように、本学は聖公会キリスト教精神に基づいた教育を施す大学であり、これは堅持する。イギリス国教会に端を発する聖公会は、キリスト教の中でも、「中道の神学」をその基礎としており、「自由」と「規律」という相反する要素が提起する問題を経験主義によって巧みに解決してきたという歴史をもつ。21世紀の大学においても、理想と現実との間の距離をどのように縮めていくかということが大きな課題であり、聖公会の伝えるキリスト教の精神を大学の教育の中に適切に位置付けることによって乗り越えていくことを目指している。そして、本学の卒業生が、キリスト教精神に基づいた教育を受けた結果の愛の精神を実践でも生かしていける人間として社会に出ていくことを目標としている(資料 1-4 p. 7、資料 1-5 p. 8)。

また、中道主義的な考え方は、別の面で今日の大学教育のあり方にも関係してくる。本学のような成り立ち・規模の大学では、教養教育に重点を置くという基本的な性格は維持

していくが、大学として、社会に貢献する人材を養成するという使命から、形式的な「教養」主義に偏するのではなく、確かな裏付けのある「実用」主義を加味したあり方が求められる。本学の文学部および人間科学部の2つの学部は、それぞれに重点を置く部分の比重に差があるとはいえ、大学教育によって与えることのできる、教養と実用という2つの側面の適切なバランスを目指して、教育方針を立てている（資料1-6 p. 39、p. 93）。

本学のもう1つの生かすべき特色は、女子大学であるということである（大学院は共学）。1892年に女学校として発足して以来、本学においては、英語教育が大きな柱としてあり続けている。その後、人間科学部において、資格に結びつくような学科を設立していく過程を経ても、一貫して追究してきたのは、女性であっても、「良妻賢母」にとどまらず、社会に出て貢献する卒業生の育成である。特に、今日では、さまざまな分野で国際的な広がり、いわゆるグローバル化の流れが避けられなくなってきている。こうした社会において活躍できるのは、男女を問わず、専門知識だけでなく、豊かな国際感覚を身に付けて、世界の中の日本の立ち位置を正確に把握し、的確な形で自らの信じることを発信することができるコミュニケーション能力をもった人材である。本学は英米オセアニアを中心とした英語圏のみならず、中国語圏との国際交流の長年にわたる実績があり、数は多いとは言えないものの、海外で活躍できる人材の養成にも貢献してきている（資料1-7）。

このように、本学は、建学以来、キリスト教主義の教育を、一方においては英語を身に付けるという形での国際性の涵養、他方においては、様々な知識・技能を習得して社会に出て働く能力の育成という両面性からとらえて女子教育に携わってきた。このような方向性は、21世紀においてますますその意義を増してきていると言える。

以上の教育理念を具体化するにあたり、大学案内においては次のような形で明示している（資料1-5 p. 8）。

キリスト教の精神：他者を思いやるキリスト教の愛。

本学はキリスト教主義に基づいており、人を愛する心の大切さを育てます。愛の心をもって社会に出て貢献することを期待しています。大学の勉強も、自分を向上させることだけでなく、よりよい社会を作ることに役立ててください。

実践的な教養：深い教養知識と広い実用技能の融合。

大学で身につける教養は、生涯にわたって学び続けることのできる基礎力を育てます。それは狭い意味の学問にとどまらず、人間・自然を理解し、自分の人生に結びつけて考える能力となります。専門的スキルも、広い視野でとらえ、社会の現場で役立ててください。

キャリア教育：個性豊かに生きる自分だけの人生。

大学は自分を大きく成長させる場です。誰でも、入学してからの4年間に大きく開花する可能性を秘めています。しなやかな心を持ち、何でもやってみようという好奇心に支えられて物事に取り組み、自分で自分の進路を切り開いていってください。

日本においては、残念ながら、社会に出て本当に男性と同等の仕事ができる女性の数はまだまだ少なく、女子教育の中でキャリア教育を適切に位置付ける必要がある。現在の日本の女子の大学進学率は、短大分を除くと、男子に比べてまだ低く、上昇の余地を残していると考えられる。女性であるということによって自らを縛るのではなく、また女性であることに

甘えるのでもなく、女性の特性を生かした仕事で社会に貢献できる人材を養成することを目標としている。

さらに、神戸という土地に存在する大学であるということを忘れてはならない。兵庫県、神戸市、灘区などのさまざまな行政単位で、大学として地域連携・地域貢献をしていくことが、公共の機関としての大学に課せられた使命である。在学中からボランティア活動などを通じて地域貢献にかかわらせるとともに、卒業後の就職先の選択にも、社会貢献という視点を忘れないような人材を養成していくことを心がけている。

〈2〉文学部

文学部および文学部の各学科の教育目的は、本学学則第1条第2項の定めに基づき、それぞれ以下のように定められている。

〈文学部〉

本学建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人文系の学問の教育によって、個人の健全な人格形成を促すとともに、卒業後は、自己実現から発展して、現代社会の課題に積極的に向き合い、その発展に貢献しうる知見と能力を育成することを目標とする（資料 1-6 p. 39）。

〈英語学科〉

自らの卒業後の進路に関して明確なビジョンをもつ学生を育てることを目標とする。英語を学ぶことによって柔軟な国際性を身につけ、個性豊かに創造性を発揮して、自分自身を高めるとともに、さまざまな形で社会に貢献する社会人となることを期待する（資料 1-6 p. 58）。

〈日本語日本文化学科〉

日本語・日本文化について深く豊かな教養を身につけ、優れた日本語の使い手として社会に貢献できる人材の育成を目標とする。日本文化に対する確かな知識と教養を身につけ、卒業後も多文化世界への洞察力をもつことを期待する。また、世界に「日本」を発信できる人材を養成することも目標としており、カリキュラム上にも十分反映されている（資料 1-6 p. 70）。

〈総合文芸学科〉

人類が発展させてきた文芸の成り立ちとその所産について学ぶ。文芸の世界の広がりをつたえながら、学習を探究へと進展させ、自分のことばで表現することを通じて、ことばの力を中核とした幅広い知識と主体的能力とを身につけることを目標とする（資料 1-6 p. 80）。

文学部では、大学全体の教育理念を踏まえながら、教養と実用という2つの側面のうちで、教養の方にやや重点を置いた教育を提供している。個々の専門分野において、ことばとその背景にある人間の多様なあり方に関する幅広い知識の養成、また、ことばによる外部情報を的確に受容・判断・理解し、外部に向けた情報を説得力のある形で発信する幅広いコミュニケーション能力の育成をめざしている。これらの知識・能力は、社会に出て働く場合にも大きく貢献するものであると考えている。

そのため、文学部では、世界の文学、語学、文化の研究者のほか、コミュニケーション

学、英語教育・日本語教育などの教育学、国際ビジネス関連分野、マスメディア関連分野など、実践的なコミュニケーション能力の養成を支える領域の教員を擁し、学部・学科の理念・目的の実践を図っている。

個性化への対応として、各学科に設けられた「コア科目群」制度を通じて、専門分野での研究を目的とする教育課程だけでなく、実践的な能力の養成に重点を置く教育課程の選択を可能にし、学生の多様な志向・能力に応じた教育に配慮している。

〈3〉人間科学部

人間科学部および人間科学部の各学科・専攻の教育目的は、本学学則第1条第2項の定めに基づき、それぞれ以下のように定められている。

〈人間科学部〉

本学建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした女子教育を通じて、他者への思いやりの心をもって社会へ貢献することができる社会人を養成するとともに、社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材を養成することを目標とする（資料1-6 p.93）。

〈心理学科〉

人の心と行動を調査・分析する実証的な研究方法に加え、さまざまな実習等を通して心の問題解決に必要な知識と技術を身につけ、問題解決の方策を社会に提案できる人材の養成を目標としている（資料1-6 p.118）。

〈生活学科都市生活専攻〉

都市化された社会における生活をさまざまな視点から研究することにより、人間らしい質の高い生活を創造・提案できる人材を育成する（資料1-6 p.124）。

〈生活学科食物栄養専攻〉

情報化の進んだ社会における人間の行動に関する知識をもとに、疾病者に対する療養のための栄養指導、健康保持増進のための栄養カウンセリング、特定多数の人々に対応する給食経営管理を行う「管理栄養士」を育成する（資料1-6 p.136）。

〈子ども発達学科〉

人間理解についての心理学・教育学等の専門的知識と具体的な技能に加えて、教育現場で応用可能な知識・技能や子育て支援のスキルを習得させ、学校・幼児教育・保育・家庭・地域における教育活動ないし子育てを推進できる人材の養成を目標としている（資料1-6 p.146）。

〈ファッション・ハウジングデザイン学科〉

2つのデザイン領域の専門知識・技術と同時に、人間科学的・生活学的な視点と深い教養に根差し、調和のとれた生活に資する具体的で創造的なデザインを提案できる社会人を養成することを目標としている（資料1-6 p.169）。

人間科学部の各学科は、大学全体の理念を踏まえて、教養と実用という観点からは、文学部に比べて、実用にやや重点を置いた教育を提供している。各々の専門性・技術性は、より明瞭で個別的となり、「こころ」(心理学科)、「からだ」(生活学科)、「子ども」(子ども発達学科)、「デザイン」(ファッション・ハウジングデザイン学科)に焦点を当てて、日々生きることを考える教育を展開しているが、その過程で、単なる実用に留まらず、人間が社会の中で生きていく様々なあり方を考える場も提供している。

そのため、人間科学部では、社会科学、自然科学、および複合的な専門領域の研究者を擁し、深い理論的知識と実践的な技術の教授を通して、学部・学科の理念・目的の実践を図っている。

個性化への対応として、人間科学部の各学科はその資源を生かし、地域に志向した教育、研究、社会貢献を行っている。

人間科学部の専門教育科目においては、講義では論理性に裏付けられた科学的知識を身に付け、演習・実習・実験では、問題発見、解決への提案、それらを実行できる技能を養っている。人間科学部の専門教育科目のフィールドは、神戸の地を中心に展開されている。人間科学部の学生は、専門科目で学んだ知識をもとに、神戸の地で地域の課題解決に向けて実践活動をし、本学の理念に沿った人材育成がされている。

<4>文学研究科

先述のとおり、文学研究科の理念・目的は、神戸松蔭女子学院大学大学院学則に定められている。その理念・目的に基づき、育成する人材像を学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）として以下のように定めている（資料1-8 p.1）。

<文学研究科>

言語と文化と人間心理を探究し、文化の創造的発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的としており、その方針のもとに各専攻の人材育成に関する目的を定めている。それらの目的で定められた人材となりうる学識と能力を持つと判断された者に学位を授与する方針である。

具体的には、専攻ごとに「教育研究の目的および人材育成に関する目的」を以下のよう

に定めている（資料1-9 p.60）。

修士課程

<英語学専攻>

個別言語としての英語の性質の探究を通して、人間の言語の普遍的特性を求めるといふ、現代言語理論に則った研究を推進する。また、これを基盤として、社会言語学、心理言語学、言語哲学、情報科学などの関連領域を探究し、人間の社会的特性、思考や習得のメカニズムに多角的なアプローチを試みる。本専攻が育成する人材は、国際性があり、研究に必要な情報を取得・処理・表現する能力、および、広く、体系的な知識を持ち、自然科学・工学との対話が可能な人文科学の研究者および技能職業人である。

<国語国文学専攻>

日本語および日本文学を対象とし、日本語の変遷や我が国の伝統遺産である日本文学の実証的研究を中心とした研究を行う。本専攻では過去から蓄積されてきた文献を主にした基礎的な研究を柱とするが、特に日本語学の領域では社会言語学など現代日本語の研究を推進すると共に、外国語との比較研究や日本語教育も重視する。本専攻が育成する人材は、体系的な知識を持つ研究者や国語教員、あるいは日本語を教授できる技能職業人である。

<心理学専攻>

臨床心理学コースの教育研究の目的は、困難な現代を生きる人々に関する発達や偏り、不適応などに関する臨床心理学の理論を習得させることである。人材育成に関する目的は、そうした理論に基づいた具体的援助技法や、その際に必要とされる態度・倫理を身につけた、心理学的援助の専門家を育成することである。

心理学コースでの教育研究の目的は、困難な現代を生きる人間心理が対象であり、実験や調査を用いた行動科学としての心理学に基づいた先端的な知識を学び、人間心理の一般的法則やしぐみの解明について習得させることである。人材育成に関する目的は、研究者や実証的調査の専門家を育成することである。

博士課程

<言語科学専攻>

言語科学専攻は、自然言語の性質を言語科学分野の各領域から多角的に探求することにより、人間に固有の能力としての言語の普遍的特性を求める。博士課程は一次的に研究者の養成を目指すものであるが、大学院教育の役割が多様化している現在、研究者以外の人材を生み出す可能性も求められていることを認識し、柔軟に対応する。すなわち、本専攻が育成する人材は、研究分野について広く体系的な知識を有し、そのような知識を国際的な場で生かすことが可能な人文科学の研究者および専門家である。

このように、大学院における教育は、学問の進歩に対する貢献ということが第一義的な目的となるが、このような課程において、専攻分野によらず、国際的な視野は重要であり、そのような視野を身に付けることが望まれている。また、一人の研究者あるいは専門家として社会の中で働く場合には、人類全体に対する貢献という視点を忘れてはならない。これらの資質をもつ修了生を育てることは、本学の建学以来の理念に沿うものである。

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

<1>大学全体

学校法人松蔭女子学院寄付行為は、神戸松蔭女子学院大学管理運営規程集に収録して教職員に配布している（資料 1-10 p. 193）。

神戸松蔭女子学院大学学則は、神戸松蔭女子学院大学諸規程集に収録して教職員に配布するとともに、学生便覧にも収録して学部学生に配布している（資料 1-11 p. 1、資料 1-4 p. 55）。

神戸松蔭女子学院大学大学院学則は、神戸松蔭女子学院大学諸規程集に収録して教職員

に配布するとともに、大学院便覧にも収録して大学院生に配布している(資料1-11 p. 266、資料1-9 p. 53)。

さらに、学生便覧には、神戸松蔭女子学院大学における学士課程教育の方針を「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」と「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」に分けて記載しており、上記の理念・目的をより具体的に示した教育の方針として示している(資料1-4 p. 3)。これらの教育方針は、各学部、学科・専攻ごとにも定められ、履修ガイドに記載されている(資料1-6 p. 39、p. 58、p. 70、p. 80、p. 93、p. 118、p. 124、p. 136、p. 146、p. 169)。また、受験生を対象とした「入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)」とともに、すべての教育方針を本学ホームページや大学ポートレートにおいても一般に公表している(資料1-12、資料1-13、資料1-14)。

また、大学の理念に関わる考え方は、折にふれ、また、さまざまな表現で、大学案内、学報、学院報、同窓会の会報、教育後援会の会報、入学式・卒業式での式辞、学長ブログなどの形で提示して、広く周知している。

教員を中心とした全学的な会議としては教授会があるが、それとは別に、学長・副学長・事務局長からなる学長室と各学部の学科長・専攻長との会議として学部会議を定期的に行っており、このような場でも、大学方針を各学科・専攻に周知徹底することを心がけている。さらに、学長室と個別の学科・専攻との会合も定期的に行き、大学全体の観点から各学科・専攻の教育内容・人事構成に対する要請を提示してきている。

年に一度、教職員を対象として、教学委員・入試部長からなるアクションプランの発表会の場を設け、旧年度を振り返るとともに、新年度に向けての計画を発表している。また、アクションプランの発表会は、各学部・学科、各センター、図書館などにも義務づけており、学内の各部署の間での問題意識の共有を心がけている。

学長室は、また、大学に密接に関係する、卒業生の同窓会である千と勢会の幹部と定期的に懇談の場を設け、現在の大学のあり方を伝え、必要な協力を要請してきている。

併設校である松蔭中学・高等学校の校長、副校長、理事とは毎月の常務理事会の場でそれぞれの近況を報告するとともに、学院全体の問題を折にふれて討議している。

学生の保護者を対象とする教育後援会とは、定期的に役員と教学委員との懇談会を開くとともに、毎年保護者を対象とした懇談会を開き、大学の基本的な方針を説明するとともに、保護者側からの学科特有の問題を聞く場を設けている。

<2>文学部

文学部および各学科の教育目的は、大学ホームページ、および履修ガイドに示すことにより、学生に周知を図り、また教職員間での共有を図っている。受験生を含む社会一般に対しては、大学ホームページ、大学ポートレートを通じて公表している(資料1-6 p. 39、p. 58、p. 70、p. 80、資料1-12、資料1-14)。

<3>人間科学部

人間科学部および各学科・専攻の教育目的は、大学ホームページ、および履修ガイドに示すことにより、学生に周知を図り、また教職員間での共有を図っている。受験生を含む社会一般に対しては、大学ホームページ、大学ポートレートを通じて公表している(資料

1-6 p. 93、p. 118、p. 124、p. 136、p. 146、p. 169、資料 1-12、資料 1-14)。

<4>文学研究科

本学大学院の理念・目的を記載した神戸松蔭女子学院大学大学院学則は大学ホームページで公開している。文学研究科の「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」および各専攻の「教育研究の目的および人材育成に関する目的」は大学ホームページ、大学ポータルサイトにおいて公開している（資料 1-13、資料 1-14）。また、大学院要覧補遺として大学院生全員と教職員に配付されている（資料 1-8）。

(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

<1>大学全体

大学全体の方針の決定・見直しについては、学長・副学長・事務局長から構成される学長室会議を随時開催しており、そこから教学委員会・理事会・教授会などへ提言していつている。

キリスト教教育については、宗教主事を委員長とするキリスト教センター委員会に学長も出席し、大学全体の方針を随時見直している。

(2)でも述べたが、年に一度の、教職員を対象とした、教学委員・入試部長からなるアクションプラン発表会の場で、旧年度の振り返り、新年度に向けての計画の報告の中で、大学の使命の見直しを行っている。また、各学部・学科、各センター、図書館などによるアクションプランの発表会でも、学内の各部署での活動状況を点検している。

教職員の研修システムとして副学長を委員長とする FD 委員会があり、FD・SD 活動を定期的に実施している。

全学的な自己点検・評価委員会では、本評価に先立って 2008 年度に点検・評価作業を行い、大学基準協会の適合評価を得て、2010 年に自己点検・評価報告書を公表している。

大学の教育理念が卒業生にどのように理解されているかを調べるために、卒業生調査を実施した（資料 1-15 pp. 6-7）。また、在校生に対しては各学期末に授業評価アンケートをすべての授業に対して実施するとともに、学生の声を直接聞く場を設け、教育理念に基づいたカリキュラムを点検している（資料 1-16、資料 1-17）。

<2>文学部

文学部では、学長室主催の学部会議、および文学部 3 学科実務会議において、教育理念・目的の検証を行っている。併せて各学科における各年度の教育課程の編成に際し、学部・学科の理念・目的との整合性を検証しながら、教育課程編成・実施の審議・決定を行っている（資料 1-18）。

<3>人間科学部

人間科学部では、学長室主催の学部会議において、教育理念・目的の検証を行っている。併せて各学科・専攻における各年度の教育課程の編成に際し、学部・学科の理念・目的との整合性を検証しながら、教育課程編成・実施の審議・決定を行っている（資料 1-19）。

〈4〉文学研究科

文学研究科では、専攻ごとに次年度カリキュラムの検討を毎年行い大学院委員会で審議している。大学院委員会では理念・目的との合致についても検討した上で次年度カリキュラムの承認をしている（資料1-20）。

2. 点検・評価

●基準1の充足状況

キリスト教に基づいた教育は本学の基本理念の一つであり、全学共通科目の中心的な柱としてキリスト教関係科目がカリキュラム上重要な位置を占め、「神戸松蔭とキリスト教」、「キリスト教学Ⅰ」は全学必修とされている。またその到達目標として本学の教育理念である「他者を思いやるキリスト教の理解」が示されている。

また学生から、キリスト教が「近寄り難い」という印象をもたれないように、キリスト教センター委員、チャプレンが中心となって、親しみやすいキリスト教関連行事を学内で企画・開催し、積極的参加を呼びかけている。チャペルにおける毎日のヌーン・サービス、受難節、復活節（イースター）などの際の特別礼拝、入学時と卒業時の感謝礼拝、学生・教職員の誕生日礼拝などを行っている。さらに、11月末から年末にかけては、近隣の住民も交えた行事として、クリスマス・ツリー点灯式、クリスマス・キャンドルサービス、クリスマス・チャリティー・コンサートを開催し、キリスト教に触れる機会を数多く用意している（資料1-21）。

教養教育と実用教育のバランスに関しては、文学部の中にもキャリアを意識した科目、課外講座などを設置し、学生に積極的な参加を呼びかけている。

実践的な教養としての教養教育と実用教育の融合に関しては、全学共通科目においては一般教養系列をはじめとしてキャリア・ビジネス教育系列、コミュニケーション系列、情報教育系列、健康・スポーツ系列の多様な科目群を設置し、生涯にわたって学び続けることのできる基礎力、コミュニケーション力の育成を目標としている。また外国語科目においてもグローバル化した国際社会で生きていくための社会人としての基礎的な技術を身に付け、異文化・多文化に対する理解を深めることを目標としている（神戸松蔭女子学院大学における学士課程教育の方針・カリキュラム・ポリシー）。

キャリア教育については全学共通科目においてキャリア・ビジネス教育系列を設け、自立した女性として、自己を確立することに努力できるようキャリアを築く意欲と力を育成することを目標としている。また専門科目においても文学部においては、「卒業後も自己実現から発展して、現代社会の課題に積極的に向き合い、その発展に寄与し貢献しうる知見と能力を育成すること」を目標とし（文学部ディプロマ・ポリシー）、人間科学部においては「『健康で人間らしく質の高い生活』の実現と継承に資する人材を養成すること」を目標（人間科学部ディプロマ・ポリシー）としている。

①効果が上がっている事項

大学全体、学部、学科の理念・目的の間に整合性が保たれ、本学における教育の方向性を一貫した形で示すものとなっていると考える。

また、大学の理念、目的は大学案内、大学ホームページ、大学ポートレートなどを通じて公開され、周知されている。

2011年度の改組以後、豊かな国際感覚とグローバルなコミュニケーション能力の育成を教育目的として広報している英語学科では、学科全体としては入学定員充足に向けての入学者数漸増という状況の中で、より高度で質の高い英語教育の提供を特長とする英語プロフェッショナル専修の志願者・入学者が、2014年度まで学科内配分定員数を上回って着実に増加し続けている。

キリスト教主義の大学として、キリスト教センターにおいて毎年、礼拝時の聖歌隊とオルガン奏楽者、チャペルでの結婚式の介助役としてのブライダル・キャプテン、ボランティア・カフェ（売上をすべて近隣の福祉施設に寄付）に従事する学生を募集しており、年々参加を希望する学生が増えてきている。クリスマスの礼拝やキャンドル・サービスなどのポピュラーな行事には一般学生の参加も増えてきている。また、2012年度から、卒業感謝礼拝を母教会である神戸聖ミカエル教会で行っているが、学内のチャペルで行うのとほぼ同数の学生の参加を得ている。

地域連携・貢献に関しては、近年、「大学コンソーシアムひょうご神戸」を中心とした、兵庫県、あるいは神戸市、灘区の中でのさまざまな行事・イベントに本学の学生が参加することが増え、一定のよい影響を学生・地域の双方に与えてきている。他にも、地域の子育て支援などの地域連携の取り組みが定着してきている（資料 1-22 p. 1, pp. 5-7, pp. 9-10）。

2013年度に実施された卒業生調査では、卒業後の大学の理念の評価として本学で学び身に付いたこととして、「愛する心を持ち、社会に貢献できる心」（キリスト教精神）61.4%、「人を理解し向き合えるコミュニケーション能力」（実践的な教養）78.3%、「ものごとを柔軟に考える力」（実践的な教養）70.4%、「生涯にわたって学び続けることのできる基礎力」（キャリア教育）64.1%、と肯定的な評価を得ている。本学の理念に基づいた教育が卒業生に評価されていることが明らかになった（資料 1-15 p. 6）。

②改善すべき事項

教育理念・目的については、大学全体としての教育理念・目的が学部・学科のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーの形で、一定の整合性を保ちながら学生便覧や履修ガイドに明記されている。従来、大学学則には、これらのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）に対応する形での理念・目的が明示されていなかったが、2015年4月1日より改正施行予定の学則では、大学の理念・目的を明記している。

文学研究科においても、その理念、目的を示したディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーが各専攻において設定され整合性を保っている。学部と同様に、従来、大学院学則には、ディプロマ・ポリシーに対応する形での理念・目的が明示されていなかったが、2015年4月1日より改正施行予定の大学院学則では、大学院の理念・目的を明記している。

キリスト教教育については、毎日の昼休みのヌーン・サービスへの学生の参加がまだ少ない。必ずしも礼拝の形にとらわれずとも、キリスト教の精神を伝える方策が必要である。

地域連携・貢献に関しては、これまでは、個々の地域連携の取り組みが単発的に発生し、相互に連絡をとることなく進められてきた。また、カリキュラムとの連携がなく、学生にとっては、本学で学ぶということと地域貢献との関係がつかみにくくなっている。大学と

して、教育体系の中に地域連携を適切に位置付け、卒業後の活動にも結び付けるような方策が必要である。

学士課程教育の方針、特にディプロマ・ポリシーが、卒業時において、どの程度達成されているかを客観的に測定するしくみを整備していない。ルーブリックの活用などにより、卒業時に全員の達成度を客観的に把握してカリキュラムの向上に役立てるというサイクルを確立する必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

チャペル奉仕活動やゼミ単位での活動など、学生と地域との積極的なかかわりによる地域貢献の実績が着実に積み重ねられている。これをさらに発展させる教職員側の体制の整備に努めたい。また、カリキュラムの中に正課として組み込むことも検討していきたい。

神戸でのキリスト教主義にたつ教育機関での学習経験が社会人となった後に積極的な意味をもつことがより強く自覚されるように、自学・自地域の学習により力を入れていきたい。

女子大学での教育は、社会でより積極的に活動し得る人材を育成する潜在的な力をもっており、多くの社会で活躍している先輩卒業生を生み出しているが、そのような存在を在校生に、より積極的に伝えていきたい。

大学ポートレートなどへの参加によって、本学の理念、目的をよりわかりやすい言葉で示し公開している。

卒業生調査では、本学で身に付いた力として「人を理解し向き合えるコミュニケーション能力」（実践的な教養）が78.3%と最も評価が高かったが、在校生については毎年実施されるキャリアアプローチの結果からは、実践的教養を身に付けるための知的動機付けと基礎学力が低下していると言わざるを得ない（資料 1-23）。またキャリア教育への動機付けも、毎年の卒業生総数に対する就職希望者の割合も見ても、初年次からの動機付けが今後の課題となると思われる。キャリア関係の科目の見直し、および、コミュニケーション系列の科目の見直しを行い、社会人力の育成に重点を置く予定である。

②改善すべき事項

大学・大学院ともに、理念・目的の学則への明記に関しては、先述の通り、2015年4月1日より改正施行のそれぞれの学則において明記される。今後、大学の理念や目的がどの程度達成されているかルーブリックなどを用いて多角的に検討し、ポートフォリオを活用して、評価結果に基づく改善策を策定し実行する予定である。

キリスト教教育および地域連携・貢献に関しては、学生がより参加しやすく、学生自身の成長にもむすびつくような形を、関係する委員会・部署で検討していくとともに、学生にそれを周知する必要がある。

さらに、女子大という特性が関係しているのか、授業後遅くまでキャンパス内に滞在する学生が少ない。これは大学の施設・設備として学生の居場所が少ないということも関係していると思われる。学生にとってもっと居心地のよい、ラーニング・コモンズのような形態を増やしていく必要がある。

上と関連して、本学のような敷地では完全なバリアフリーのキャンパスを作ることは困難であるが、より学生にとってアクセスしやすいキャンパスにしていく必要がある。

4. 根拠資料

- 1-1 学校法人松蔭女子学院寄附行為
- 1-2 神戸松蔭女子学院大学学則
- 1-3 神戸松蔭女子学院大学大学院学則
- 1-4 2014年度 神戸松蔭女子学院大学 学生便覧
- 1-5 2014年度 神戸松蔭女子学院大学 大学案内パンフレット
- 1-6 2014年度 神戸松蔭女子学院大学 履修ガイド
- 1-7 神戸松蔭女子学院大学 国際交流通信（2014年4月1日発行）
- 1-8 2014年度 大学院要覧補遺
- 1-9 2014年度 神戸松蔭女子学院大学大学院 大学院要覧
- 1-10 神戸松蔭女子学院大学 管理運営規程集抜粋
- 1-11 2014年度 神戸松蔭女子学院大学諸規程集抜粋
- 1-12 神戸松蔭女子学院大学 ホームページ抜粋「神戸松蔭女子学院大学 理念・目的・方針」
<http://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/foundation.html>
<http://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy.html>
- 1-13 神戸松蔭女子学院大学 ホームページ抜粋「神戸松蔭女子学院大学大学院 理念・目的・方針」
<http://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy.html>
- 1-14 大学ポータルサイト 神戸松蔭女子学院大学 抜粋「特色・目的・方針等」
<http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000572501000.html>
<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501001.html>
<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501004.html>
<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501002.html>
<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501003.html>
- 1-15 2013年度 神戸松蔭女子学院大学卒業生調査 報告書 2014年2月
- 1-16 2013年度前期・後期 学生による授業評価アンケート（実施結果）
- 1-17 2013年度「授業について学生の意見を聞く会」への回答
- 1-18 文学部 学部会議 議事録（2012年度～2014年度）
- 1-19 人間科学部 学部会議 議事録（2012年度～2014年度）
- 1-20 2014年度 第3回 大学院委員会議事録
- 1-21 キリスト教センター年間行事（2013年4月～2015年3月）
- 1-22 神戸松蔭女子学院大学 学報No.56（2014年3月20日発行）
- 1-23 2014年度大学生基礎力調査（自己発見レポートⅠ キャリアアプローチ）結果報告